

平成30年度 第1回タウンミーティング

「協働による まちづくりの推進」

羽島市 企画部 市民協働課

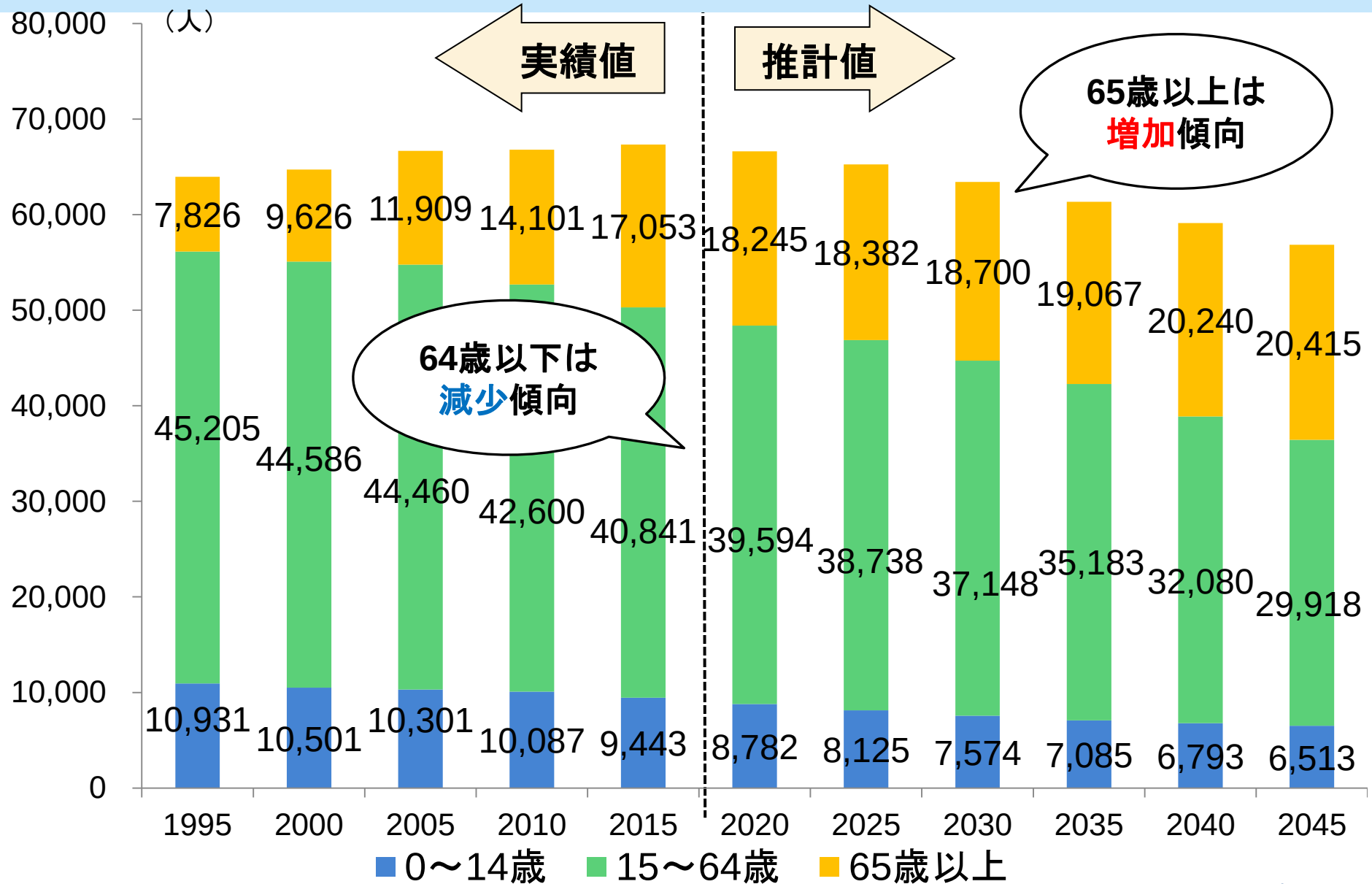
平成30年度のキーワードは・・・

『ともに
学び・考え・実践する
羽島市』

本日の内容

1. 「協働」について
2. コミュニティセンターの
地元移管について
3. 寄り合いワークショップの開催事例

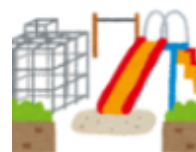
羽島市の人口の推移



生産年齢人口が減少すると…

- ◆ 税収も減少し、財政状況が厳しくなる
- ◆ 高齢者を今よりも少ない人数で支えなければならない
- ◆ 空き家や耕作放棄地等が多くなり、環境や治安が悪化する

⇒自治体だけでは、現在の公共サービスを継続的に維持していくのは困難



「協働」とは

- ◆ 市民・地域・行政がそれぞれ特性を理解し、協力して役割を果たすこと



第1歩として

- ◆ 市民や地域として協力いただけること、行政がすべきことを分類・整理

地域に期待される新たな役割

- ◆希薄になった地域の繋がりを再生
- ◆協働による新たな公共づくり
- ◆特色ある地域づくり
- ◆地域防災力の向上
- ◆地域医療、健康づくり 等



その手法として

コミュニティセンター地元移管

全コミュニティセンターの運営管理を地域振興公社から地域のコミュニティセンター協議会に移管
→地域の実情に合わせた運営管理が可能に

【地域担当職員制度（H29年4月）】

全職員（病院医療職、消防職等を除く）を各地域に配置し、その中から各3～4名を「地域担当職員」に任命

→地域をサポートする体制を整備

コミュニティセンター地元移管

羽島市のコミュニティセンター（１）

平成17年度まで

中央公民館
竹鼻地区公民館

足近地区公民館
小熊地区公民館
正木地区公民館
竹鼻南地区公民館
福寿地区公民館
江吉良地区公民館
堀津地区公民館
上中地区公民館
下中地区公民館
桑原地区公民館

平成18年度から

中央公民館
竹鼻地区公民館

足近コミセン
小熊コミセン
正木コミセン
竹鼻南コミセン
福寿コミセン
江吉良コミセン
堀津コミセン
上中コミセン
下中コミセン
桑原コミセン

地域振興公社が指定管理

平成26年度から

中央公民館
竹鼻地区公民館

足近コミセン
小熊コミセン
竹鼻南コミセン
福寿コミセン
江吉良コミセン
堀津コミセン
上中コミセン
下中コミセン
桑原コミセン

地域振興公社が指定管理

正木コミセン

地元
指定
管理

コミュニティセンター地元移管

羽島市のコミュニティセンター（2）

平成29年度から全コミセン指定管理受託

施設名	指定管理者
足近コミュニティセンター	足近コミュニティセンター協議会
小熊コミュニティセンター	小熊コミュニティセンター協議会
正木コミュニティセンター	正木コミュニティセンター協議会
竹鼻コミュニティセンター	竹鼻コミュニティセンター協議会
竹鼻南コミュニティセンター	竹鼻南コミュニティセンター協議会
福寿コミュニティセンター・ 福寿地域交流センター	福寿コミュニティセンター協議会
江吉良コミュニティセンター	江吉良コミュニティセンター協議会
堀津コミュニティセンター	堀津コミュニティセンター協議会
上中コミュニティセンター	上中コミュニティセンター協議会
下中コミュニティセンター・ はしまコミュニティセンター	下中コミュニティセンター協議会
桑原コミュニティセンター	桑原コミュニティセンター協議会

コミュニティセンター地元移管

コミュニティセンターの取り組み実績

- ◆ 照明のLED化、室内クロスの張替え、駐車場のライン整備を安価な施工金額で実施
- ◆ LED化により光熱費を削減
- ◆ 利用者の要望を受け、迅速な修繕（戸棚設置、下駄箱の塗装等）を実施
- ◆ ホームページの管理等を地域ボランティアが協力



コミュニティセンター地元移管

地域担当職員の取り組み実績

- ◆ 地域の3大行事（夏祭り、町民運動会、文化祭）の運営会議から出席し、当日の準備、進行補助、片付け等に参加
- ◆ 総会や敬老会等にも参加し、地域の方と顔の見える関係を築く

コミュニティセンター地元移管

敬老会実行委員会の取り組み実績

- ◆ 敬老会の主催者が市から各町の敬老会実行委員会になり、地域の実情に合わせた運営が可能に
- ◆ 平成30年度から対象者の年齢について、呼び年齢から満年齢に見直し

寄り合いワークショップ

(特色・内容)

住民が地域の持つ個性や資源等の中から現実にあるものを探し出す



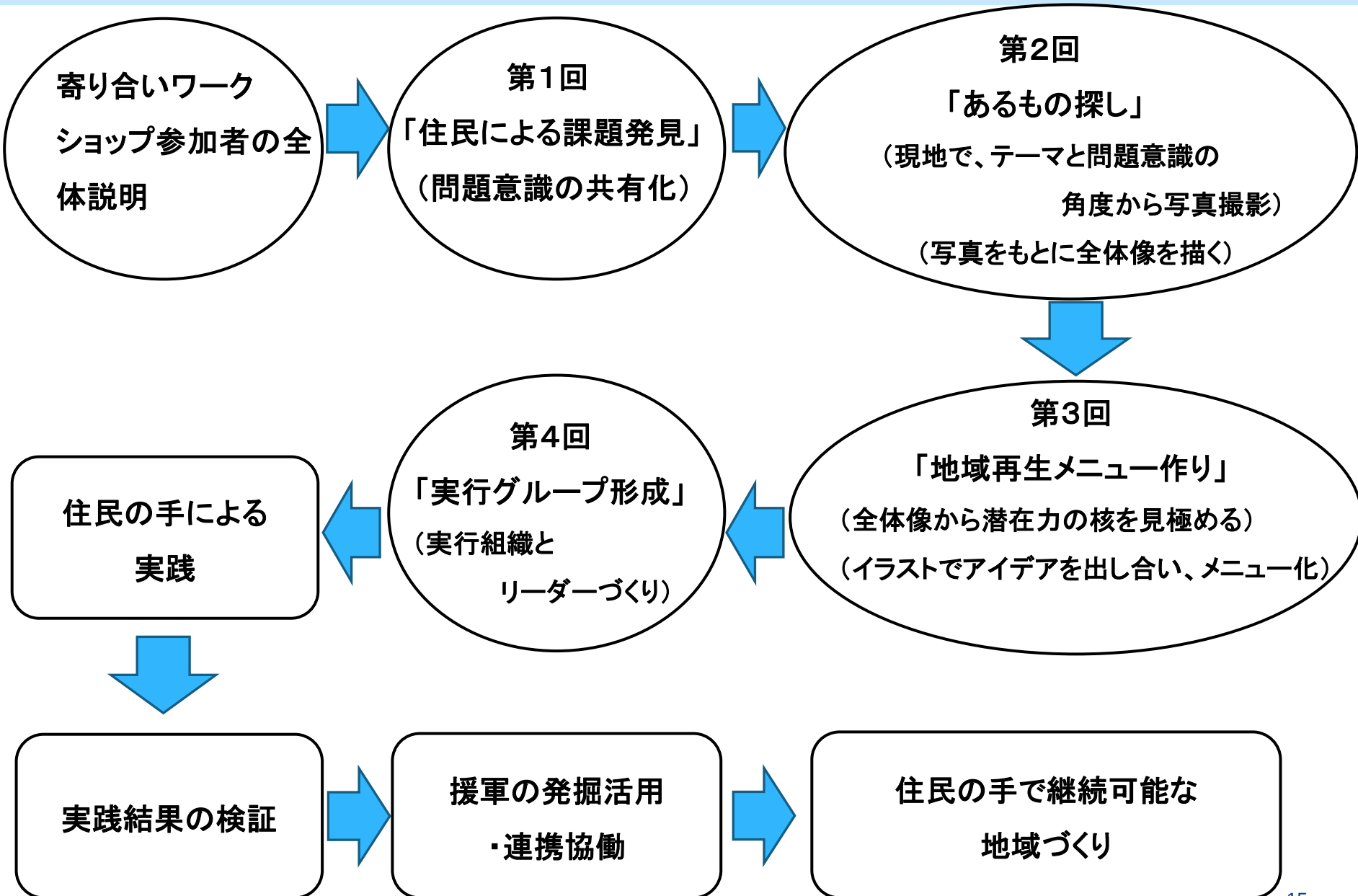
地域課題や問題点を掘り出し、解決方法や目標づくり、人づくり、地域づくり等を話し合う

(開催方法)

- ◆ 地域のコミュニティセンター協議会が主体となり、コミセン単位で開催
- ◆ 地域担当職員が場の進行支援を実施



寄り合いワークショップ



寄り合いワークショップ

正木町の開催事例
(岐阜大学インターンシップの学生も参加)

開催回	日 時
事前説明	平成29年 8月 9日(水)19時～20時
第1回	平成29年 8月31日(木)19時～22時
第2回	平成29年10月10日(火)19時～21時30分
第3回	平成29年11月29日(水)19時～21時30分
第4回	平成30年 1月26日(金)19時～21時

寄り合いワークショップ

第1回

①

導入講義



③

意見地図



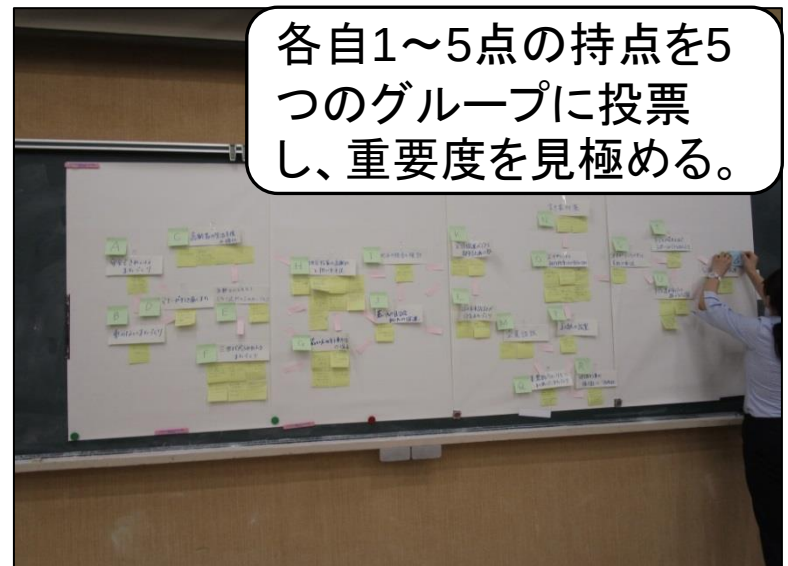
②

意見交換



④

重要度評価



寄り合いワークショップ

第1回

抽出課題(テーマ)一覧

1位(52点)	地区役員の高齢化と担い手不足
2位(46点)	正木町による耕作放棄地の有効活用
3位(34点)	三世代がふれ合えるまちづくり
4位(29点)	子供たちが安心して遊べる公園
5位(24点)	若い人の自治会加入の促進
6位(21点)	子供から大人までスポーツができるまちづくり
7位(19点) 同点	若い人の行事参加の促進
	若者の未来設計ができるまちづくり
9位(17点)	定住促進ができる都市計画の見直し
10位(15点)	道の駅の設置

(宿題)
写真
取材

1人
20枚
程度

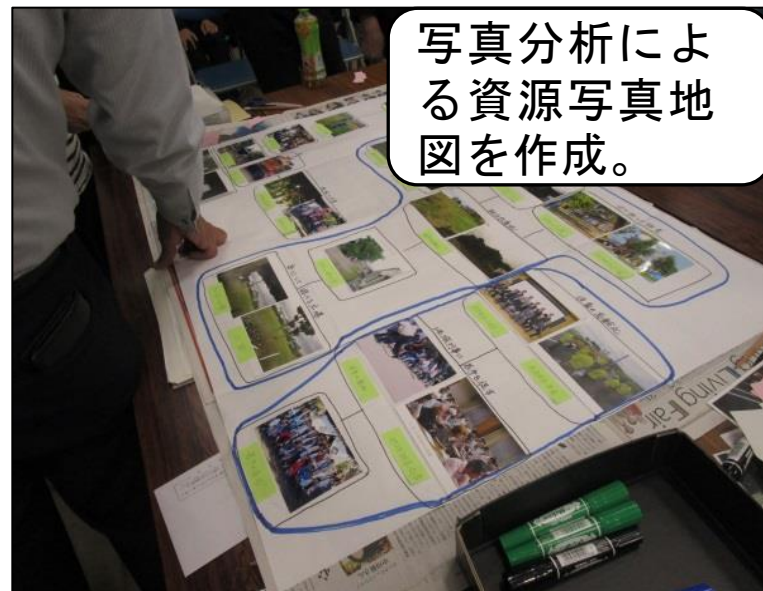
寄り合いワークショップ

第2回

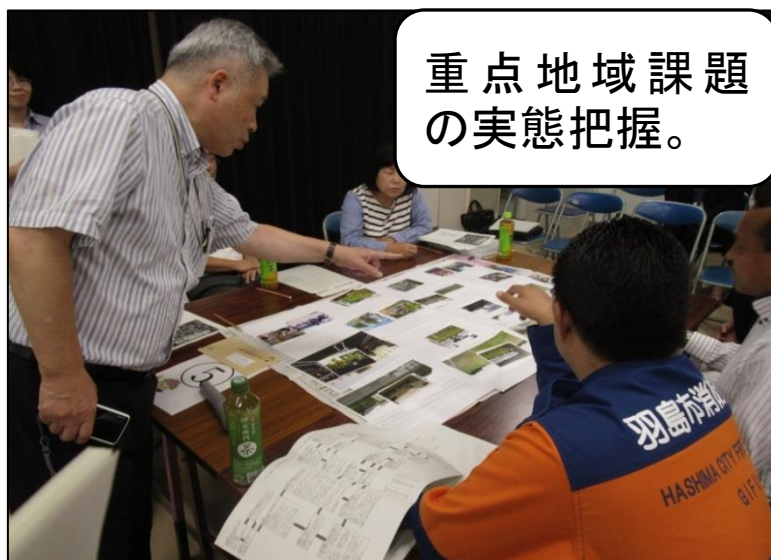
①
振り返り



③
図解作成



②
写真配置



④
全体発表



寄り合いワークショップ

第2回



(宿題)
イラスト
アイデア
カード

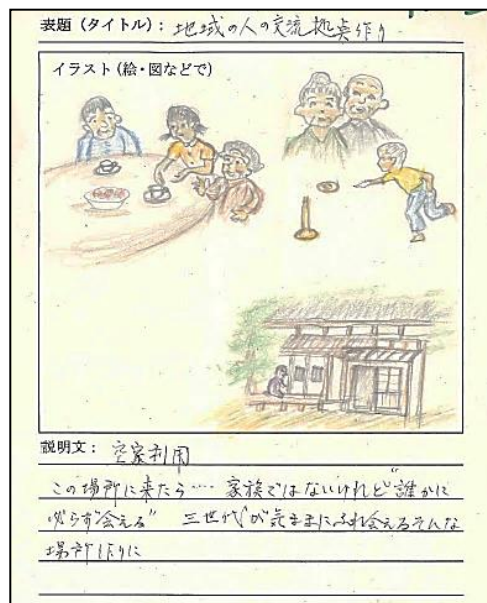
1人
3枚
程度

第3回

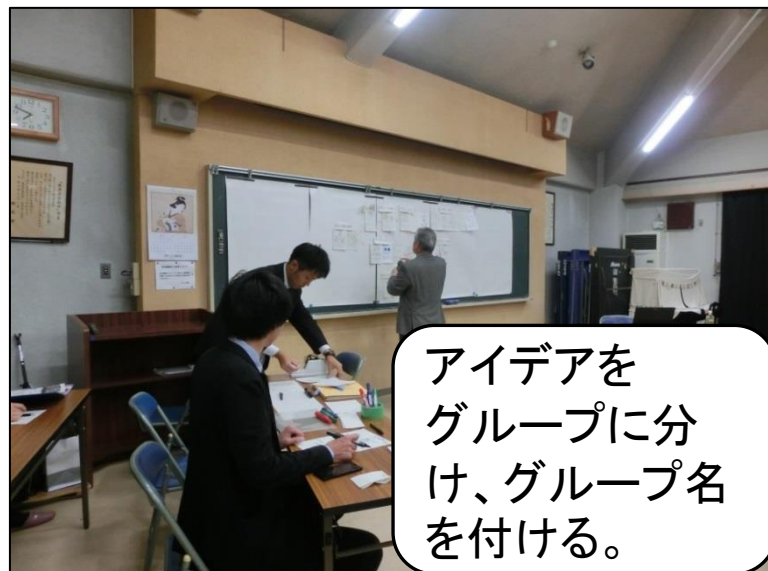
寄り合いワークショップ

アイデアカード

① イラスト



③ アイデア地図



アイデアを
グループに分
け、グループ名
を付ける。

② 意見発表



参加者がアイデア
カードをもとに発
表する。

④ 優先度評価



各自1～5点の持点を5
つのグループに投票し
優先度評価を行い、実
行策を見定める。

第3回

寄り合いワークショップ

課題解決のアイデア 優先順位

1位(46点)	特産品作り
2位(36点)	史跡体験コースの開発
3位(34点)	手作り青空市の開設
4位(32点)	みんなが集える憩いの場
5位(20点)	休耕地の活用に向けた税制支援
6位(19点)	耕作放棄地を利用した農業体験
7位(18点)	総合レジャーランド道の駅の開発
8位(15点)	企業誘致
9位(14点) 同点	花見と収穫祭の開設
	三世代の地域の人の交流拠点づくり

寄り合いワークショップ

第4回

①

意見交換



③

組織決定



②

優先順位



④

全体発表



第4回

寄り合いワークショップ

優先順位	アイデア項目	難易度	実現の目標時期			役割分担			着手順位		実行組織
			短期 1年	中期 2・3年	長期 4・5年	住民	協働	行政	順位	評価 得点	
1	特産品作り	B		●		●			4	34	
2	史跡体験コースの開発	C	●	●		●	●		2	50	①
3	手作り青空市の開設	B		●		●			1	52	②
4	みんなが集える憩いの場	A			●		●	●	6	21	統合
5	休耕地の活用に向けた 税制支援	A			●			●	9	3	
6	耕作放棄地を利用した 農業体験	B		●		●			6	21	
7	総合レジャーランド道の 駅の開発	A			●		●	●	8	6	
8	企業誘致	A			●		●	●	9	3	
9	花見と収穫祭の開設	C	●			●			3	43	②
9	三世代の地域の人の 交流拠点づくり	B		●		●			5	22	③

第4回

寄り合いワークショップ

実行組織 組閣表

実施策の協議・役割分担: チーム

●実行委員長:

●実行副委員長:

●事務・連絡係:

●写真・記録係:

●メンバー:

■今後の集まり方:

- ① 史跡体験コース
- ② 花見De:青空市
- ③ 三世代の地域の人
の交流拠点づくり

- ① 2ヶ月に1回
- ② 月1回 第1金曜日
- ③ 月1回 第3日曜日

寄り合いワークショップ

先進地紹介

和歌山県 田辺市（人口 約74,000人）
龍神地区を対象としてH20にスタート

【地域課題】

里芋がおいしいが、高齢化により栽培が少なくなっている。

【解決策の優先順位】

- ・里芋の栽培と焼酎づくり
- ・産地直売所

H21 まちおこし団体
「みらい龍神」設立



【さらなる計画】

- ・龍神村ブランドの強化
- ・耕作放棄地の対策
- ・学生ボランティアと協力

里芋の焼酎、コロッケ、
里芋汁などを商品化
生産農家20戸（H21）
→126戸（H26）

寄り合いワークショップ

地域のコミュニティセンター協議会

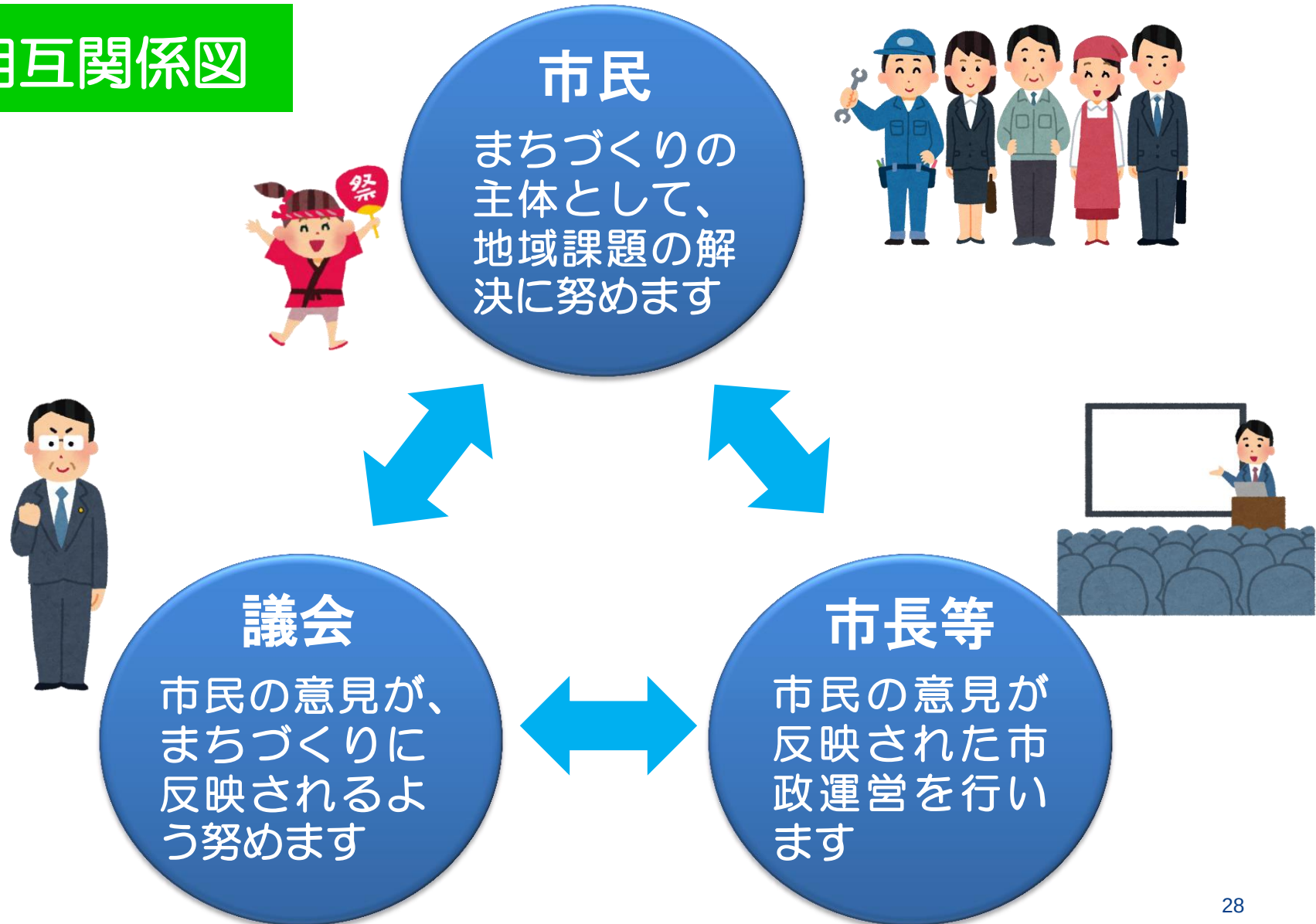
- ◆地域づくりに興味のある方を募集します
概ね15～30人(女性を2～3割)
- ◆参加者は、説明会及び全4回の出席をお願いします

羽島市

- ◆開催に必要な道具は市が用意します
- ◆司会進行は、地域担当職員を中心に市職員が行います

羽島市まちづくり基本条例

相互関係図



ご清聴ありがとうございました。